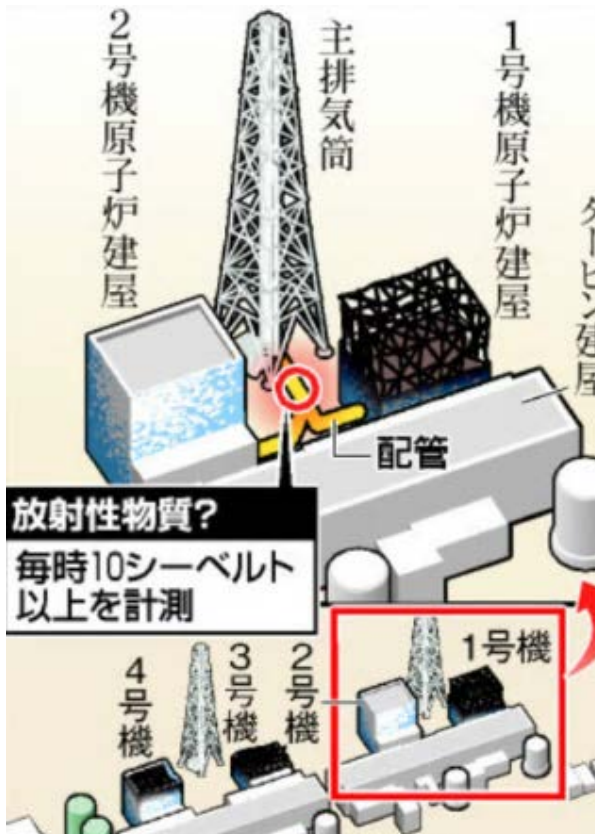


1・2号機の排気塔の撤去・理由と問題点

2017年4月、大地震で倒壊の可能性が指摘される東京電力福島第一原発1、2号機の排気筒で、支柱の1カ所に新たな破断が見つかった。

排気筒は高さが約120メートル。これまでの東電の調査では、筒の真ん中辺り（高さ66メートル地点）の4カ所8本の支柱で接合部に破断や変形が見つかった。



東京新聞：2017年4月時点 破断と錆



北側/支柱が2本とも破断している

排気筒の下では $10 \mu \text{Sv/hr}$ という高濃度の放射線レベルを示しており、この排気筒が大地震で倒壊の可能性があることが指摘されているため、東電は2017年4月6日に1と2号機の間にある主排気塔を再点検した。そして、新たに構造物から1本の斜材を取り除いた解析モデルで地震応答解析を行い、耐震安全性の再評価を実施した。この排気筒については、上部構造(鉄塔および筒状の部分)と基礎部の評価結果から、基準地震動 $S_s-1\sim 3$ (基準値振動を定める方法の相違) に対し、倒壊には至らないことを確認した。しかしこの排気筒については、リスクをより低減するという観点から規制委員会は東電に早期の解体をするように指導してきた。

東電では2018年8月28日より1/2号機排気筒の解体装置の実証試験に着手した。Step1(解体装置の性能検証)が完了し、2018年11月13日よりStep2(施工計画検証)に入っている。現時点で解体計画に支障となる大きな課題は確認されていないという。(東電：2018/11/29：<https://bit.ly/2RVC3cb>)

解体完了までに大地震で倒壊することがないように祈るのみ。